

学校教育ビジョン 校訓（建学の精神） 学校教育目標 重点目標	・きたえる ・たかめる ・思いやる 「自らのよさを感じ 自ら考え行動する 作見っ子の育成」 「楽しい学校は、自分でつくる みんなでつくる」2.0 ～自分から～ ～みんなのために～	めざす児童像 ○目標をもって、挑戦する子 ○学びを楽しみ、学びを生かす子 ○人との関わりを大切に、豊かにつながる子	めざす教師像 ○チャレンジ精神・向上心のある教師 ○授業を大切に、児童を伸ばす教師 ○チームで、豊かに育てる教師
---	--	--	---

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果(中間)	判定結果(最終)	今後の改善策
①教育課程・学習指導	・自ら学ぶ力をはぐむ授業を通して、「考える つながる 高め合う 作見っ子」の育成を図る。	「自ら学ぶ力を高める授業づくり」を重点として、目指す姿の共有や単元構想シート・学習計画表の工夫をする。 ・学びを委ねるための工夫や個の学びを見取る実践を積み重ねる。	研究主任 教務主任	学年や教科・単元に応じて子どもに委ねる授業を実践してきた。算数科を中心として個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図りながら、単元構想シート等を活用して学びを委ねる工夫を推進する。	【成果指標】 目指す授業像に基づいて自ら学ぶ力を高める授業づくりの工夫を行っている。	自ら学ぶ力を高める授業づくりの工夫をしているという教職員が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	1, 2学期末に教職員にアンケートを実施する。	A		授業公開や授業研究の積み重ねにより、自ら学ぶ力を高める工夫を行っている。2軸のねらい達成に向けて、単元構想シートを活用しながら授業づくりを行っている。
②生徒指導 ※いじめの未然防止	安全・安心な風土を醸成する。	お互いの個性や多様性を認め合い、安心して授業や学校生活を送れる風土を教職員の支援の下で児童自らが作り上げられるように取り組む。	生徒指導主事	児童の自己肯定感や自己有用感が低く、たくさんの人から認められる経験が乏しい児童が多い。いいね作見小の取り組みを生かして、安心・安全な風土の醸成を行う。	【成果指標】 いいね作見小の取組を積極的に進めている。	「友達のよいところを見つけることができた」という児童が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	1, 2学期末に教職員にアンケートを実施する。	A		友達のよいところを見つけることができたという児童が、91%で各クラスで、いいねの取り組み、自分にはよいところがあると回答した児童が昨年2学期に比べ、6%向上した。2学期は行事もあるので、行事を通してよいところを見つける活動を継続する。
	全職員で児童を見守り、児童理解力の向上を図る	日頃から全校児童に声をかけ、情報共有を行うことで、児童の些細な変化を見逃さず教育相談を行い、いじめの未然防止につなげられるように取り組む。	生徒指導主事	全職員で全校児童を見守るという方針の下、ICTを活用しながら情報共有する土台ができた。それを活用して、児童の些細なサインを見逃さない学校づくりを推進する。	【成果指標】 児童理解をするために、多くの児童とのつながりを作っている。	「多くの児童に声をかけつなかりを作ることができた」という教職員が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	1, 2学期末に教職員にアンケートを実施する。	A		年度当初に共通テーマを提示したことで職員内の意識が向上した。2学期当初にも再確認を行い、継続してつながりができるようにする。
③キャリア教育・進路指導	自分の良さに気づき、自ら考えて行動する児童の育成を図る。	行事を中心に日常生活の中で自分の良さに気づき、自ら考えて行動するための指導を行う。また、キャリアパスポートを活用し、1年間のめあてを立て、学期ごとに振り返りを行う。	キャリア教育担当	自分の良さを実感できていない児童が多い傾向がある。各種行事や代表委員会を中心に、児童に活躍する機会を与えていく。その中で、児童が主体となって学校を作っている実感を持っていく必要がある。	【成果指標】 児童は自分に良さがあると感じている。	「自分には良いところがある」という児童が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	年度当初、1, 2学期末に児童にアンケートを実施する。	B		アンケートでは、自分に良さがあると感じている児童が8割を超えていた。他方、自分には良いところが全くないと答えた児童も1割おり、高学年に上がるほどその比率は高くなっている。今後も児童の主体性を促すように心がけるとともに、自身の成長を感じられるような取組を粘り強く続けていく。
④保健管理	歯と口の衛生に対する意識を高める。	・歯と口の衛生週間に全学年保健指導を行い、委員会活動や学校保健委員会等で年間を通して歯と口の衛生に対する意識を高める。 ・歯磨き強化月間を6月と11月に設定する。	保健主事 養護教諭	年間を通して、歯と口の衛生に対する意識を高める必要がある。	【努力指標】 児童が歯と口の衛生に意識を取り組んでいる。	「歯と口の健康を意識して歯磨きに取り組んだ」という児童が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	1, 2学期末に児童にアンケートを実施する。	A		6月の歯みがきががんばり週間では、84%の児童が進んで歯みがきが出来たと回答した。児童発信による意欲付けの企画を今後も続け、11月の取組につなげたい。
⑤安全管理	児童の情報モラル・セキュリティに対する意識を高め、ネットの適切な使い方を実践する。	・教科の指導や学活の時間等を含めた様々な学習場面で、児童自ら責任を持って、適切に情報を扱うことへの意識を高め、行動できるようにする。また、保護者と連携しながら啓発に努めるようにする。	生徒指導主事	情報通信端末を発達とした児童同士のトラブルが見られるようになり、今後大きなトラブルに発展する可能性がある。そのため全ての児童が適切に情報通信端末を扱うように児童の意識を高める必要がある。	【成果指標】 ゲーム・インターネットに関するルールを作られている。	「お家の人とのゲームのルールを作っている」と答えた児童の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	1, 2学期末に児童アンケートを実施する。	C		1学期中に保護者対象アンケート結果やSCIによるルール作りに関する情報発信を行ったので、その内容をもとに、2学期は各家庭でルール作りを行い、子どもに浸透できるように呼びかける。
⑥特別支援教育	特別な支援を必要とする児童について理解を深め、支援のしかたを検討し実践する。	児童の実態をつかみ、適時校内支援委員会を開いたり専門相談につなげたりしながら、より効果的な支援のしかたを検討、実践する。	特別支援教育コーディネーター 教育相談担当	校内支援委員会でケース会議などを開き、専門相談につなげたり支援の方法を検討したりしている。それぞれのケースについて、支援の方法を探っていくことが必要である。	【努力目標】 支援委員会で、具体的な支援のしかたを決めて、実践しようとしている。	具体的な支援を行うことができたという教職員が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	1, 2学期末に教職員にアンケートを実施する。	B		校内支援委員会やケース会議を開き、支援の必要な児童について共通理解し、組織的に対応している。専門相談や医師等、外部機関との連携も続けていく。SCや山下特別支援アドバイザーにも助言を頂き、今後の支援に繋げていく。
⑦組織運営・業務改善	業務の精選、勤務時間に対する職員の意識改革を進める。	・時間外45時間を超えない働き方への意識を高める。 ・日課や学校行事の内容や分担の見直し、ICT活用等を行い、業務の精選、削減、平準化の改善を進める。	教頭	業務改善の意識は高いが、担当業務による時間外勤務時間の偏りが見られる。各自が自分の働き方を見直し、常に各部会・全体会等で互いに確認し協働的に業務を進めるなど、業務改善の意識をもち、企画・実行していく。	【努力指標】 教職員が、全体や個人の取組の中で、時間外勤務の削減に取り組もうとしている。	「時間外勤務時間を45時間以下にしようとしている」と回答した教職員が A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 60%未満である	1, 2学期末に教職員にアンケートを実施する。	A		時間外勤務削減の意識は高く、ICTの活用などそれぞれに取組を進めている。研修日の設定や協働的に業務に取り組むなどの取り組みを進めていく。
⑧研修	教員の情報活用能力を育成するための研修を実践する。	PC活用講習会を実施することを通して、日々の実践の交流やPCの使い方、PCを活用した授業の教材研究について教員が学びの機会を設け、実践を積み上げる。	教務主任 GIGA推進リーダー	PCの扱いには慣れてきているが、教科の特質に応じた活用やより効果的な実践の機会を増やす必要がある。	【成果指標】 PC活用講習会等の校内研修を経て、教科の特質に応じた活用をする。	PC等を使った授業を毎日行っていると答えた児童の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	1, 2学期末に児童にアンケートを実施する。	B		毎日活用したと答えた児童の割合は78.9%であった。発達段階や児童のスキルに合わせて意図して効果的に活用していく。
⑨保護者、地域との連携	学習活動に地域・保護者と連携する場を設け、開かれた学校を目指す。	学習の成果物について保護者の感想をもらったり、授業を生かした家庭での取組を行ったりする場面を設定したり、CS等により地域の方の力を借りて、より良い学習活動に取り組む。	教頭	家庭や地域と連携し、より良い学習活動につなげていく。また、学校の取り組みが保護者により伝わるように工夫する。	【努力指標】 学習の中で、家庭・地域との連携を意識した取組を行っている。	授業等で家庭と連携した取組を行ったと回答した教職員が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 50%未満である	1, 2学期末に教職員にアンケートを実施する。	C		1学期にはあまり取り組みなかった様子が見えるが、2学期にはCSを通しての地域の方への協力をいただくなどの取組を計画的に進めていく。
⑩教育環境整備	児童の安全安心の確保および、より良い学びを実現するための環境を整備する。	偶数月に、より良い学習環境の視点を持ちつつ、管理場所の安全点検を行う。不備な箇所については、速やかに修繕を行う。	教頭	安全点検の実施により、不備な箇所の修繕は進んでいる。今後はより良い学習環境の実現についても可能な限り改善を進めていく。	【努力指標】 施設の不備を未然に察知すること、改善を行う。 より良い学びの実現にふさわしい環境づくりを心掛けている。	より良い学習環境の構築の視点を持ちつつ、安全点検に取り組むことができた教職員が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 60%未満である	1, 2学期末に教職員にアンケートを実施する。	A		子どもに委ねる授業の実践を進めると同時に、ふさわしい学習環境について、安全安心な環境づくりとともに考え、改善を進めていく。

学校関係者評価	③肯定的ではない回答をした1割の子どもたちについては、PTAや家庭に呼びかけ、協力を得るとよいのではないかと。 ・PTAの作見っ子の冬休みの内容に「一緒に掃除をする」などを取り入れ、取り組んでみる。 ・子ども園等の家庭や保護者との連携の仕方も参考にしてみるとよい。幼保小の連携にもつながるのではないかと。 ⑧PCを毎日使ったと答えた児童の割合については、学年や学習内容により違いがあるので、基準の再検討を行うべきではないかと。 ⑨コドモンで学校だよりなどを配信していることで、学校の様子が知れたり、後で見返して見ることができるようになり、とても良い。
---------	---